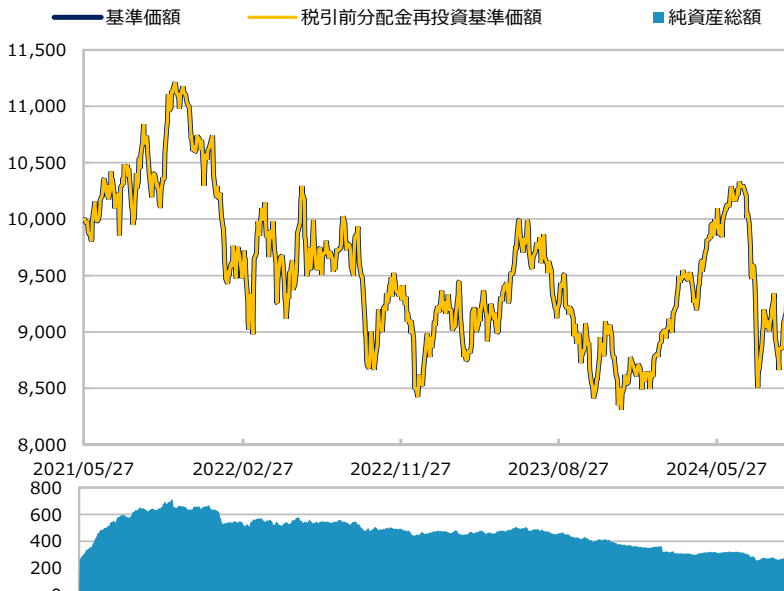


ファンド設定日：2021年05月28日

日経新聞掲載名：アジアGX

基準価額・純資産総額の推移（円・百万円）



■ グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
■ 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	9,637	+444
純資産総額（百万円）	290	+14

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/08/30	4.8
3 カ月	2024/06/28	-5.1
6 カ月	2024/03/29	0.9
1 年	2023/09/29	7.5
3 年	2021/09/30	-6.3
設定来	2021/05/28	-3.6

■ ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
■ ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
■ 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第1期	2022/05/12	0
第2期	2023/05/12	0
第3期	2024/05/13	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
株式	94.8	-1.1
先物等	0.0	0.0
現金等	5.2	+1.1
合計	100.0	0.0

基準価額の変動要因（円）

	計	インカム	キャピタル
株式	+487	+38	+449
先物等	0	0	0
為替	-30	-	-
分配金	0	-	-
その他	-12	-	-
合計	+444	+38	+449

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



規模別構成比率 (%)

	当月末	前月比
大型株	37.6	+2.7
中型株	27.7	+0.1
小型株	29.5	-3.9
合計	94.8	-1.1

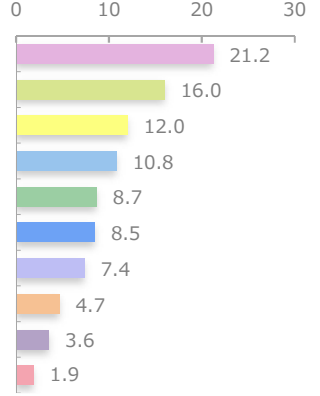
※ 規模別分類は、三井住友DSアセットマネジメントによる分類です。

組入上位10通貨 (%)

	当月末	前月比
1 日本円	21.2	-1.5
2 香港ドル	16.0	+1.1
3 オーストラリアドル	13.4	-0.3
4 韓国ウォン	12.0	+0.4
5 中国元(オフショア)	10.4	+0.5
6 アメリカドル	8.4	-0.4
7 台湾ドル	6.4	-0.3
8 フィリピンペソ	3.6	-0.3
9 インドルピー	3.3	-0.1

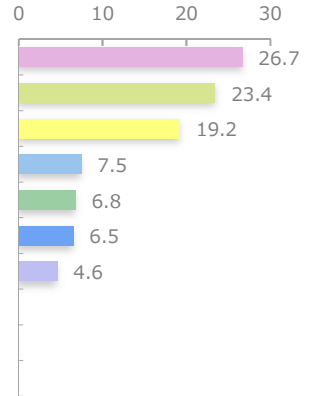
組入上位10カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 日本	21.2	-1.5
2 中国	16.0	+0.7
3 韓国	12.0	+0.4
4 台湾	10.8	-0.4
5 オーストラリア	8.7	-0.0
6 ケイマン諸島	8.5	+0.6
7 インド	7.4	-0.5
8 ジャージー	4.7	-0.3
9 フィリピン	3.6	-0.3
10 香港	1.9	+0.1



組入上位10業種 (%)

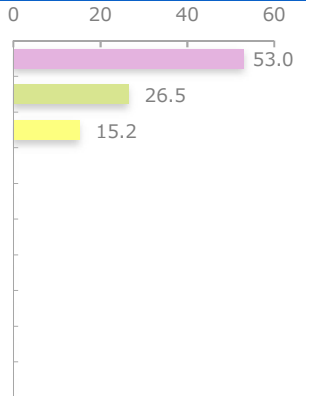
	当月末	前月比
1 情報技術	26.7	-2.1
2 資本財・サービス	23.4	+1.4
3 一般消費財・サービス	19.2	+0.7
4 エネルギー	7.5	-0.8
5 素材	6.8	-0.1
6 公益事業	6.5	-0.3
7 リート	4.6	+0.2



※ 業種はGICS (世界産業分類基準) による分類です。

投資テーマ別構成比率 (%)

	当月末	前月比
脱炭素技術の進化	53.0	-1.6
エネルギーのクリーン化	26.5	-0.7
限られた資源の活用	15.2	+1.3



※ 三井住友DSアセットマネジメントによる分類です。

組入上位5銘柄

(組入銘柄数 40)

銘柄	国・地域 業種	投資テーマ	比率 (%)	コメント
1	ホンハイ精密 台湾 情報技術	脱炭素技術 の進化	5.0	EMS（電子機器の受託生産を行うサービス）における世界のトップ企業。米アップルのiPhoneなどスマートフォン向けで磨いてきた受託生産モデルを活用し、事業分野をEV（電気自動車）の製造に拡大するなど、「脱炭素技術の進化」に貢献。EMSで培った高い技術力を活用することで、EV事業が新たな収益源になることが見込まれる。
2	アムコア ジャージー 素材	限られた資源 の活用	4.7	食品、飲料、ヘルスケア業界向けのパッケージやペットボトルの生産を手掛ける。顧客である消費財や医薬品関連企業がネットゼロの達成を目標に掲げるなか、同社もリサイクル適性に優れる包装素材の開発や生産過程での再生可能エネルギーの活用を通じ「限られた資源の活用」に貢献。パッケージ業界におけるリーディング企業として、今後も安定的な売上成長と、利益率が見込まれる。
3	グッドマン・グループ オーストラリア リート	エネルギーのク リーン化	4.6	オーストラリアの総合不動産会社で、ビジネスパーク、産業不動産、オフィスパーク、倉庫などを所有、運営。所有不動産におけるエネルギー効率向上や再生可能エネルギーの活用など、持続可能な不動産の開発に向けた投資拡大を通じ、「エネルギーのグリーン化」に貢献。インターネット通販の更なる普及やデータセンターに対する需要拡大などを背景に、今後も安定的な業績成長が見込まれる。
4	TSMC 台湾 情報技術	脱炭素技術 の進化	4.4	半導体の設計を自前で行わず、受託製造に特化する「ファウンドリ」と呼ばれる業態のパイオニアであり、世界トップシェアを誇る。EV（電気自動車）などのエネルギー効率改善に寄与する半導体の供給を通じ、「脱炭素技術の進化」に貢献。最先端技術への積極的な投資を行いつつ、優良顧客との強固な関係のもとで、高い収益性を実現。域外での生産拠点の分散も進めており、今後も持続的な業績成長が見込まれる。
5	MARUWA 日本 情報技術	脱炭素技術 の進化	4.3	EV（電気自動車）駆動用インバーターに使用されるパワー半導体向けのセラミック基板などを手掛ける部品メーカー。パワー半導体は拡大が続くEV市場の中で重要な役割を果たしており「脱炭素技術の進化」に貢献。世界的な脱炭素化の流れを背景にEV市場の拡大が期待されるなか、同社は、EVやデータセンター向けなど、強度と放熱性が要求される領域をターゲットにした高付加価値品に強みを持ち、底堅い業績が見込まれる。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



組入上位6～10銘柄

銘柄	国・地域 業種	投資テーマ	比率 (%)	コメント
6	リライアンス・インダストリーズ インド エネルギー	エネルギーのク リーン化	4.1	石油・化学や通信・小売りなどを手掛けるインドの財閥。近年は次世代燃料として注目されているグリーン水素や太陽光発電事業の拡大に積極的で、関連分野における買収などを通じ、「エネルギーのグリーン化」に貢献。2035年までにネットゼロを達成するとの目標を掲げるほか、再生可能エネルギーの生産に必要な中核部品の工場建設を計画するなど、環境関連ビジネスが新たな収益源になることが見込まれる。
7	中国建築 ケイマン諸島 資本財・サービス	脱炭素技術 の進化	3.8	中国本土や香港、マカオでビル建設や土木工事を手掛ける建設会社。BIPV（建材一体型太陽光発電）分野での競争力を高めており、「脱炭素技術の進化」に貢献。BIPVは、高級住宅やホテルなどを含む複合開発や駅舎など公共インフラプロジェクト等において導入事例が増えている。環境にやさしいモジュール統合建築（工場で建築部品を製造し、建設現場で組み立てる建設方法）分野での有力企業でもあり、今後も持続的な業績成長が見込まれる。
8	デンソー 日本 一般消費財・サービス	脱炭素技術 の進化	3.5	自動車用電装部品の製造・販売大手。EV（電気自動車）向けに電子制御装置やモーターなどの生産を手掛け、「脱炭素技術の進化」に貢献。各国政府によるネットゼロに向けた取り組みや、技術革新等によるEV製造コストの削減も追い風に、EV市場は中長期的な市場拡大が期待される。同社は、高い技術力と製品開発力をベースにトヨタグループだけでなく、世界の完成車メーカーと幅広く取引をしており、世界的なEVシフトの恩恵を大きく受けると見込まれる。
9	上海宝信ソフトウェア 中国 情報技術	脱炭素技術 の進化	3.5	中国の大手鉄鋼グループ傘下のソフトウェア企業。鉄鋼生産工程のデジタル化や高度化を通じ「脱炭素技術の進化」に貢献。中国政府が単位GDP当たりのエネルギー消費量削減を目標に掲げるなか、鉄鋼業界においても生産効率向上に向けた投資拡大が期待される。同社は、業界大手企業としての規模と積極的な研究開発を通じ安定的な業績成長が見込まれる。
10	ダイキン工業 日本 資本財・サービス	限られた資源 の活用	3.5	省エネ性能に優れるダクトレスエアコンメーカーの世界大手。海外での空調普及率の上昇や、アジアにおける人口増を背景とした需要増加などにより中長期的な市場拡大が期待される。同社は、世界トップクラスの省エネ環境技術を持ち「限られた資源の活用」に貢献。省エネ性能の高いエアコン及びヒートポンプ暖房の市場成長に伴い業績拡大が見込まれる。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

アジア・オセアニア株式市場は香港が大幅に上昇する一方、韓国、日本などが下落しました。

米国の株式市場は上昇しました。上旬には、景気鈍化への警戒感から株式市場は調整する動きが見られましたが、その後、FRB（米連邦準備制度理事会）が0.5%と大きめの利下げを決定したことや、年内の追加利下げの可能性を示唆したことなどをを受けて上昇しました。

香港は大幅に上昇しました。中国人民銀行（中央銀行）が銀行の預金準備率や主要政策金利を引き下げたことが好感されました。また、低迷する不動産市場を受け、既存の住宅ローンの借入金利の引き下げや、住宅購入に関する規制緩和策を示したことも指数の押し上げ要因となりました。これらに加え、株式市場を支援する目的で、株式安定化基金の創設などの流動性供給方針を示したことも大きく好感されました。

その他の市場では、新政府による景気刺激策への期待からタイが上昇したほか、8月のCPI（消費者物価指数）が市場予想を下回ったことや、中央銀行が預金準備率引き下げの方針を発表したフィリピンなどが上昇しました。一方、韓国では、従業員を大幅に削減すると報道された大手電子機器メーカーなどを中心に軟調でした。日本も中旬にかけて下落した後、FRBの利下げなどをを受けて反発しましたが、月末の自民党総裁選の結果を受けて今後の経済政策や国内景気を巡る不透明感が高まり、月間では下落となりました。

<運用経過>

9月は、再生可能エネルギー関連事業者を含む多様な産業向けに電力ケーブル事業などを手掛けるフジクラを購入しました。一方、主要顧客である米インテルからの受注見通し悪化懸念からイビデンを売却しました。

保有銘柄の中では、陽光電源や上海宝信ソフトウェア、BYD、美的集団（ミデア・グループ）など、香港や中国のGX関連銘柄の上昇が目立ちました。日本株では、セーレンやMARUWA、ダイキン工業などが堅調の一方でデンソーや岩谷産業が軟調となるなど、強弱まちまちでした。

GX関連の業界ニュースでは、各国のメディアが、次世代型太陽電池である「ペロブスカイト型太陽電池」に関して中国での投資ラッシュや太陽光から電気への変換効率向上を大々的に伝えるなど、有望視する声が強まっています。ペロブスカイト型太陽電池は、シリコンではなくペロブスカイトと呼ばれる薄膜材料を使う太陽電池のことで、発明したのは日本の大学に所属する日本人研究者です。ノーベル賞級の画期的な技術であると評価されており、今後もその注目度は高まる一方となりそうです。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドマネージャーコメント

＜市場見通しと運用方針＞

米国大統領選挙の動向や、欧米と中国の通商問題、中東および東アジアにおける地政学リスクが依然として不透明要因ですが、インフレの鈍化を背景にFRBが利下げを開始したことを受けて、今後は世界的な金融環境の改善が見込まれます。また中国政府が低迷する不動産市場の安定化へ向け支援策を強化しているほか、流動性供給など株式市場の安定化を重視する取組みを積極化していることなどから、アジア・オセアニア株式市場は安定化すると予想します。GX関連企業については、米国を中心としたこれまでの金利上昇によりバリュエーション（投資価値評価）の調整が進んだ分野もみられ、投資妙味は全体として徐々に増えています。また、EV（電気自動車）の需要鈍化や太陽光発電分野の過剰生産能力問題などに関し、先行き不透明感が残るものの、一方で、データセンター投資の拡大や再生可能エネルギー需要の高まりに伴う送電網投資など堅調な分野も複数あり、GX関連投資全体の拡大基調は今後も持続する見込みです。引き続き、強固なサプライチェーン（供給網）を構築し、独自の技術や商品開発力により、持続的な成長が期待できる企業への選別投資を通じ、GX分野の成長を取り込んでまいります。

今後も、アジア・オセアニア地域において、環境に関する技術の進化や政策の変化に関して成長が期待できるGX関連企業の株式に投資します。銘柄選定にあたっては、「脱炭素技術の進化」、「エネルギーのクリーン化」、「限られた資源の活用」の3つの投資テーマから成長が期待できる銘柄を選別します。個別の産業では、より効率的な送配電網へのアップグレードなどに関連する分野に注目しています。また、リサイクルや水処理関連分野も持続的な成長が期待できるとみています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ファンドの特色

- アジアGX関連株式マザーファンド（以下「マザーファンド」ということがあります。）への投資を通じて、主としてアジア地域の株式の中から、環境に関する技術の進化や政策の変化に関して成長が期待できるGX（グリーン・トランスフォーメーション）関連企業の株式に投資します。
 - アジア地域とは、日本を含むアジア・オセアニア各国・地域を指します。
 - アジア地域内外の取引所に上場している不動産投資信託（リート）、預託証券（DR）等に投資する場合があります。

* GX（グリーン・トランスフォーメーション）とは
当ファンドでは、先端技術を活用して、二酸化炭素（CO2）の排出量の増加や海洋プラスチックごみ等による環境問題を解決し、持続可能な社会を実現させることをいいます。
- 実質的な運用は、アジアのリサーチ力に強みのある、スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（ホンコン）リミテッドが行います。
 - マザーファンドの運用の指図に関する権限の一部を、スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（ホンコン）リミテッドに委託します。

※同社は、アジア地域の株式の運用については、環境等の成長分野やアジア・新興国などの成長地域の調査・分析に強みのある、TTインターナショナル・アセットマネジメント・リミテッドからの投資助言を活用します。また、日本の株式の運用については、三井住友DSアセットマネジメント株式会社からの投資助言を活用します。
- 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - 基準価額は為替変動の影響を受けます。

※一部の国・地域によっては口座開設に時間を要するため、一定期間は現物株への投資ができない場合があります。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※ファンドは、委託会社が定義する「ESG投信」に該当します。
委託会社におけるESG投信の定義および該当ファンドは、ESG投信の規制動向、ESGに関する国内外の情勢、委託会社の認定基準の見直し等により、今後、変更となる場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

投資リスク

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

● ファンドは、特定のESGテーマに絞った銘柄投資を行いますので、市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定のESGテーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該ESGテーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。

● ESG投資は、銘柄選定プロセス等において、ESG評価提供機関等が提供する各種データを利用する場合があります。当該データは、有価証券の発行体による情報開示に依存していることが多く、データの即時性、完全性、比較可能性は保証されていません。また、提供機関ごとにデータ収集方法・評価方法等が異なるため、同一発行体に対するESG評価が大きく異なる場合があります。

● 投資対象国によっては、有価証券の売買を行う際の売買益等に対して課税される場合があります。将来、これらの税率や課税方法が変更された場合、または新たな税制が適用された場合、基準価額に影響を及ぼすことがあります。

● ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2021年5月28日設定）

決算日

毎年5月12日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- 香港の取引所の休業日
- 香港の銀行の休業日



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.584%（税抜き1.44%）**の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、信託財産の運用を行います。 スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（ホンコン）リミテッド

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
a uカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第61号	○	○	○	○		
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第2251号	○	○	○	○		※1
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第44号	○	○		○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長 (金商) 第3号	○					
木村証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長 (金商) 第6号	○					
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第128号	○					
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	○		
明和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第185号	○					
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○		
株式会社イオン銀行 (仲介)	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第633号	○					※2
株式会社 S B I 新生銀行 (S B I 証券仲介)	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第10号	○			○		※3 ※4
株式会社 S B I 新生銀行 (マネックス証券仲介)	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第10号	○			○		※3 ※2
株式会社大東銀行	登録金融機関 東北財務局長 (登金) 第17号	○					
P a y P a y 銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第624号	○			○		

備考欄について

※1: 「ダイレクトコース」でのお取扱いとなります。※2: 委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社※3: ネット専用※4: 委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

